

9. 家康の活字

キリシタン版と家康の出版

使用資料：

キリシタン版『Flosculi ex veteris, ac novi testamenti』

『スピリツアル修行写本』

重要文化財『ドチリーナ・キリシタン』の複製本

中央アジアの非漢字文献——ウイグル文献とモンゴル文献——

松井 太

(東洋文庫研究員・弘前大学教授)

中央アジア出土のウイグル語文献とモンゴル語文献について、書誌学的な基本知識を理解し、その歴史的背景と地理的分布を把握する。また、歴史資料としての文献とその研究方法と工具書について学ぶ。

1. はじめに

- ・「中央アジア」：東トルキスタン（新疆）＋西トルキスタン（旧ソ連領中央アジア）と周辺
- ・ウイグル語とモンゴル語
- ・「中央アジア探検」により将来
- ・10～14世紀の内陸アジア史に関する一次史料としての価値

2. 主要なコレクションと目録（研究機関）[主にウイグル語資料]

3. 歴史資料としてのウイグル語文献とその研究

- 1) 文献目録・研究動向
- 2) 時代：9世紀後半，ウイグルの西遷→西ウイグル国～モンゴル帝国～14世紀末
- 3) 書体による時代判定：楷書体，半楷書体，半草書体，草書体
- 4) 地域：東部天山地方（トウルファン盆地，クチャ），甘肅～敦煌モンゴル時代には大都や江南で印刷された典籍類が流入
- 5) 分類：①典籍（写本＋刊本：仏典，マニ教，キリスト教，民間信仰等）
②文書（写本：公文書，私文書，「文書＋記録」）
③碑銘

4. 中央アジア出土モンゴル語文献

ドイツ隊将来（トウルファン地域），敦煌莫高窟，カラホト出土文書，内蒙古博物院

5. データベース（ウイグル語・モンゴル語，他言語）

6. 文法書

7. 辞書

8. ウイグル文字とその翻字・転写システム
 - 1) ウイグル文字, ソグド文字, アラム文字
 - 2) 転写システムの問題 (SUK 方式, UW 方式)
9. 読解 (BBAW, U 5259 (= SUK Lo28), BBAW, U 5325 (= USp 65))

中央アジアの非漢字文献——チベット文献——

岩尾 一史

(神戸市外国語大学客員研究員)

チベット文献に関する書誌学的な基本知識を理解し, 歴史的背景と発展の過程をみる。また, 歴史資料としての研究とその展望を考える。

1. チベットの歴史とチベット文献
 - 1) チベットの歴史とチベット語の発展
 - 2) チベット文献の種類
 - ①古チベット語文献: 木簡, 金石, 卷子本, 折本, 貝葉本
 - ②古典チベット文語文献: 貝葉本 (写本, 木版)
 - ③現代チベット語文献: 洋装本
2. 古チベット語の時代 (7 世紀～12 世紀)
 - 1) チベット文字のはじまり

古代チベット帝国, 最古の記録・文字史料
 - 2) 古チベット語文献の種類: 紙文書, 木簡, 金石史料
 - 3) 発展: 木簡から紙へ
 - 4) 各種書式の確立: 行政文書, 手紙, 契約, うらない, 翻訳仏典
3. 古典チベット文語文献の成立と展開
 - 1) チベット社会の変革: 仏教教派, 訳語, 綴り字, 貝葉本
 - 2) 書体の発達: 行書体, 草書体
 - 3) 木版印刷の登場: 印字, 木版印刷, 写本
 - 4) 20 世紀へ: さまざまな形態の著作が出現 (新聞, 貝葉本の写真複製, 洋装本, e-text)

使用資料:

『写本大蔵経』

『ナルタン版経部』

『妙法蓮華経』(図 1)